

令和6年度 第2回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会議事録

日時：令和6年11月26日（火）13：30～15：30

場所：秋田県森林学習交流館 2階「第2会議室」

○秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会委員

池田 佐保 （公募委員）
加賀谷 均 （加賀谷均税理士事務所 税理士）
笠井 みち子 （秋田県消費者協会 監事）
熊谷 嘉隆 （公立大学法人国際教養大学 理事・副学長）
佐々木 沙弥香 （公募委員）
佐藤 充 （NPO法人 環境あきた県民フォーラム 理事長）
松本 昭広 （一般社団法人 秋田県造園協会 会長）

○県側

村上 幸一郎 （農林水産部森林技監）
斎藤 正喜 （農林水産部次長）
小野 圭 （農林水産部森林環境保全課長）
進藤 聖一 （総務部税務課長）

1. 議 題

- (1) 令和6年度秋田県水と緑の森づくり税事業実施状況について
- (2) 令和7年度水と緑の森づくり税事業の計画について
- (3) 令和7年度森づくり県民提案事業の募集（案）について
- (4) 水と緑の森づくり基金の今後の活用について

2. 情報提供

- (1) 「第50回全国育樹祭」の開催会場決定について
- (2) 調査研究報告「シカの分布拡大と対応策に関する研究」について

1 開会（今川チームリーダー）

開会を宣言

2 あいさつ（齋藤次長）

秋田県農林水産部次長の齋藤と申します。よろしくお願ひいたします。本来であれば、村上森林技監があいさつするところではありますが、本日所用により遅れて参りますので、私の方からご挨拶させていただきます。

本日は、委員の皆様には、お忙しいところ、「秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会」にご出席いただき、厚くお礼を申し上げます。また、皆様には、日頃より、県政の推進にあたり、格別のご支援をいただいております、この場をお借りし、感謝申し上げます。

さて、森づくり税事業の令和6年度事業の進捗状況では、ハード事業・ソフト事業ともに順調に実施されているところです。ハード事業では特に、昨年のツキノワグマによる人身被害を受けて、「緩衝帯等整備事業」を重点的に実施しているところですが、今年は幸いにも人身被害が減少し、一定の効果があつたと考えています。一方、ソフト事業の一部でツキノワグマの出没の影響により、野外活動を中止したり、活動場所を変更したりなど若干影響が出ている状況です。現在、令和7年度の事業について取りまとめを行っているところであり、必要な事業に重点を置いて採択したいと考えています。

次に、「第50回全国育樹祭」についてですが、11月14日・15日に共催者である国土緑化推進機構の現地調査と会場決定協議を行い、お手入れ行事会場は北秋田市の「県立北欧の杜公園」、式典行事会場が大館市の「ニプロハチ公ドーム」に決定しました。

全国育樹祭では、「緑の少年団の活動発表大会」をはじめ、多くの関連行事が開催され、全国各地から多くの来県者を迎えることから、「林業県秋田」を全国に発信する絶好の機会となります。

また、森づくり税事業ではボランティアや青少年等による植樹や育樹活動を積極的に支援しているところですが、「第50回全国育樹祭」に向けて、新たに「緑の少年団」育成に取り組んでいきたいと考えているところです。

今後は本格的に準備をすすめるとともに、県民参加の森づくりを進めながら、県全体で盛り上げていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。

本日の委員会でございますが、「令和6年度事業の実施状況」や「令和7年度事業計画」、「令和7年度県民提案事業の募集」、「基金の今後の活用」についてご審議いただくとともに、林業研究研修センターからの情報提供などをさせていただきます。

皆様から多くのご意見やご提案をいただくことで、森づくり税の使途の透明性を確保しつつ、本県に必要な施策や事業に反映していきたいと考えておりますので、忌憚のない御意見を願ひしまして、あいさつといたします。

本日は、どうぞよろしくお願ひ致します。

3 委員会の成立（今川チームリーダー）

委員10名のうち7名の出席により委員会が成立していることを報告。

4 委員の紹介（今川チームリーダー）

今回初めて参加した委員の紹介

5 日程の説明（今川チームリーダー）

資料により説明

6 熊谷会長あいさつ

忙しい中ご参集いただきまして、ありがとうございます。

本日の委員会は、次第にあります議題4件と情報提供2件でございます。

委員の皆様には、議事の進行についてご協力をお願いします。また、議事の内容については毎回県のHPに掲載され、委員名も公開されますので御承知願います。

7 議題（1）

熊谷会長

議題1 令和6年度秋田県水と緑の森づくり税事業実施状況について事務局から説明をお願いします。

事務局（春日主幹・齊藤主査・山口技師）

資料1 令和6年度秋田県水と緑の森づくり税事業実施状況について説明

熊谷会長

事務局から説明がありましたが、これについて御質問・コメントなどありませんか。

加賀谷委員

マツ林ナラ林景観向上事業について、17件中2件完成し、残りは冬期間も作業可能なことから年度末には作業完了の見込みということでしたが、どのような見込みで進められているか、教えていただきたいです。

また3月に植栽事業ができるのかという点もお願いします。

事務局（齊藤主査）

作業完了の見込みについてですが、定期的に市町村などの実施主体から報告をあげてもらい、それによって、作業完了の見込みを記載しています。

植栽事業についてですが、冬期間は作業が難しいことから、現在進めているところです。雪が降る前までには完了見込みです。

加賀谷委員

作業完了見込みに植栽は入っていないということですか。

事務局（齊藤主査）

秋田市の方で植栽0.15haを進めているところです。

松本委員

植栽ということで、どのように植栽場所を選ぶのでしょうか。

事務局（齊藤主査）

海岸に近いマツ林を伐採し、植栽していない場所は穴が空いた状態になってしまうので、それを埋めるように植栽を実施しています。毎年、継続して行われているわけではありません。

熊谷会長

松本委員、よろしいでしょうか。

松本委員

はい、分かりました。

では、針広混交林化事業についてですが、今年の7月に現地視察ということで、田沢湖と美郷町の現場を視察しましたが、田沢湖の方は、モザイク状に伐採しており、それが20m四方ということでしたが、この20mというのは理由があるのでしょうか。

林業研究研修センター 和田部長

一般的にスギ林の近くに広葉樹を植えた際、光が必要になりますが、田沢湖の現場の場合、スギの樹高が20mぐらいで樹高の長さか2倍ぐらいの幅をとると、広葉樹の生育に必要な光の量を確保できます。そのため、20m四方になっていると思われま

松本委員

ありがとうございます。もっと、倍ぐらいの幅を取ってもいいのではないかという、私の個人的な意見です。田沢湖は、コナラやミズキなどが自然に生えてきますが、そういった場所にあえて植栽は必要ないと思います。植栽しても、3年は育たず、3年たってようやく生えてくるというのが現状でして、そういう点から見ると、実生だろうが植えようが関係ないと思っております。

林業研究研修センター 和田部長

幅を40mくらいとってもよいのではないかという意見ですが、光環境の視点だけでみるとその方がよいと思われま

熊谷会長

ほかにありますか。

では、わたしから質問しますが、昨今の燃料費などが上がっている中で、ハード事業は当初の予算範囲内で実施できているということによろしいでしょうか。

事務局（山口技師）

単価が上がった分に関しましては、整備面積を調整して実施している状況です。

熊谷会長

ありがとうございます。

ほかにありませんか。また、何かお気づきの点がありましたら、よろしくお願ひいたします。

8 情報提供（1）

熊谷会長

次に、議題2 令和7年度水と緑の森づくり税事業計画について入る予定でしたが、事務局からの提案で先に、情報提供1の「第50回全国育樹祭」の開催会場決定について報告したいとのことです。順番が入れ替わる理由を含めて事務局から説明をお願いします。

事務局（春日主幹）

順番が変わり、大変申し訳ございません。順番が変わることについてですが、議題の2に来年の事業計画があり、その中で第50回全国育樹祭の予算を盛り込みたいと考えており、その前に育樹祭について概要を説明した方がよいと思い、順番を変えさせていただきました。

情報提供1 「第50回全国育樹祭」の開催会場について説明

熊谷会長

ありがとうございます。「第50回全国育樹祭」の開催会場決定ということですが、皆さんいかがでしょうか。

準備等で大変なこととなると思いますが、今後も我々に情報更新していただければと思います。

9 議題（4）

熊谷会長

次の議題に移ります。

議題2 令和7年度秋田県水と緑の森づくり税事業計画について、事務局の説明をお願いします。

事務局（春日主幹）

こちら資料2の事業計画に入る前に、資料4を用いて、基金を育樹祭の費用に活用したい旨をご説明したいと思います。

資料4 水と緑の森づくり基金の今後の活用について説明

熊谷会長

説明ありがとうございます。皆様、お分かりになりましたでしょうか。育樹祭に基金を活用したい。それにより、ハード事業について、若干の休止や、遅れがでるかもしれないが、遅れたからといって重大な事態が懸念される事態にはならないと。一方で、育樹祭を開催する機会を活用して、秋田県民の方々に、森の大切さを知ることや多くの県民が直接関わることのきっかけとしたいとのことです。

おおよそでいいのですが、どのくらい育樹祭に基金を活用する予定でしょうか。

事務局（今川チームリーダー）

この後基本計画の策定を委託して、開催内容の詳細を詰めていく計画ではありますが、緑の少年団の育成を活性化していくため、令和7年度の予算に400万弱を活動する団体を盛り上げるため、予算計上したいと思います。その後、令和8年、令和9年とステップアップしていきますが、令和8年は、プレイベントという形でシンポジウムなどを開催する予定であり、そういった開催経費にも基金を充てたいと考えています。今後の計画策定によって変更となる可能性もありますが、3カ年で5,000万から6,000万程度を森づくり税から活用したいと考えています。

熊谷会長

それでは、年間2,000万から3,000万円ほど基金から活用していくということですか。

事務局（今川チームリーダー）

令和7年度は、400万弱ですが、ステップアップして、年に数千万など段階的にアップしていく形になると思います。

熊谷会長

育樹祭を開催するにあたっては、一般予算もあって、そっちをメインに活用しながら、補助的な部分で基金を活用するといった理解でよろしいでしょうか。

事務局（今川チームリーダー）

現在、水と緑の森づくり税の創設の趣旨に沿って、児童、子どもたちの森林環境学習などに税を活用しておりますが、育樹祭の関連行事である緑の少年団全国活動発表大会、交流集会なども森林、林業教育に関係する内容ですので、そういったところに拠出したいと思っております。

熊谷会長

みなさんいかがでしょうか。

笠井委員

お話を聞いていて、国から予算はでないのでしょうか。

事務局（今川チームリーダー）

予算の内訳ですが、共催者であります国土緑化推進機構から補助金をいただける形になっています。しかし、国の補助金というのは、先催県の例を見ても補助金の活用はありません。

笠井委員

少子化であるからこそ、子どもたちを巻き込んだいい活動をしてほしいと思います。

事務局（今川チームリーダー）

委員のご意見の通り、児童や生徒に、幼い頃から森林、林業に関心を深めてもらう点で、育樹祭はすごくよい機会だと考えています。そういった活動に、水と緑の森づくり税を活用し、森林の大切さを認識できる1つの契機にしたいと思います。

笠井委員

ありがとうございます。

熊谷会長

そもそもの考え方としては、育樹祭の費用が足りないから基金を使のではなく、秋田の森を全国に発信するいい機会であり、これについてはこの税の創設趣旨とも親和性が高いので、県民のみなさんの意識醸成を図る部分に森づくり税をつかうというロジックだと思います。今後県民の理解が得られるように説明の仕方や情報発信の仕方などを工夫していただければと思います。

では、また詳細が決まりましたら、情報提供していただきたいです。

事務局（今川チームリーダー）

県予算の編成段階であり、なかなか踏み込んだ説明ができず、申し訳ございません。この後県予算が決まると具体的な説明ができると思いますので、3月の基金運営委員会でお話できればと思っています。

9 議題（2）

熊谷会長

次の議題に移ります。

議題2 令和7年度水と緑の森づくり税事業計画について事務局の説明をお願いします。

事務局（春日主幹・齊藤主査・山口技師）

資料2 令和7年度緑の森づくり税事業計画について説明

熊谷会長

質問等ある方いらっしゃいますか。

佐藤委員

ハード事業についてお伺いしたいのですが、先ほど育樹祭のために、豊かな里山林整備事業の針広混交林化事業、森や木とのふれあい空間整備事業のふれあいの森整備事業を削減していくとのことですが、森や木とのふれあい空間整備事業は、来年度も今年と横ばいの事業量が計画されていますが、これは次年度から削減していくという認識でよろしいのでしょうか。これがまず1点目です。

2点目に、豊かな里山林整備事業の広葉樹林再生事業の一部について、ハード事業からソフト事業へ移行する考え方というか理由を説明いただければと思います。

最後は、ふれあいの森整備事業の委託費と工事費が分かれています、違いというのはどうい
うところなのでしょう。

事務局（今川チームリーダー）

1点目のふれあいの森整備事業についてですが、令和6年度と7年度を見ますと、市町村数、整
備箇所数が増という形になってはいますが、事業費でみると圧縮をかけております。例えば継続事
業で市町村が3カ年計画で予定しているところを1年伸ばして、単年度の事業費を圧縮し、事業
面積についても少し精査しつつ、緊急性の高い部分、本当に必要な部分を精査しながら計画を見
直していきたいと思っております。

次にソフト事業へ移行したものは、広葉樹林再生事業の委託費でございます。こちらは今年度
のハード事業の中で1市1箇所実施しており、北秋田市の森吉山の山麓にあります苗畑の維持管
理を委託しております。その苗畑は、ボランティアの方がいらしたときに、広葉樹の苗木を植えら
れるように、苗木の育成をする経費として、ハード事業の内容的に合うのか事務局内で検討した
ところ、苗畑の水まきなどの維持管理はソフト的な意味合いであり、まして自ら植えるのではな
く、ボランティアに提供するといった中身なので、ソフト事業の方が整理しやすいということで
来年度からソフト事業に移行することにしております。

最後の委託と工事費については、担当から説明します。

事務局（金澤副主幹）

ふれあいの森整備事業の県営分について、それぞれ委託費、工事費があります。委託費について
は、県民の森もしくは、能代市二ツ井にある立県百年記念の山があり、こちらの修景作業や刈り払
いなどの維持管理のためのものを委託としております。それらを3市3箇所の委託費として計上
しております。工事費につきましては、県民の森の歩道・トイレなど老朽化しておりますので、森
林公園の整備ということで計上しております。以上になります。

熊谷会長

佐藤委員、いかがでしょうか。

佐藤委員

ありがとうございます。

熊谷会長

質問の1点目は、来年度以降、育樹祭について事業を行うために既存の事業を減らすと、その
ための優先順位を事務局の方でいろいろ検討した結果、喫緊性、来年度実施しなくても影響がな
いと思われるのが針広混交林化事業だったという理解でよろしいでしょうか。

事務局（今川チームリーダー）

はい。来年度の予算要望で市町村やボランティア団体から話を聞いてみると、要望はかなり多
くありました。ある程度絞り込みをしなければいけない状況の中、マツ林・ナラ林などの保全対象

への影響や、人命に関するものは圧縮できないという観点から、絞り込みの対象から除外しています。ボランティア活動も、市民の方から、一生懸命計画して、ボランティア活動したいといったものについても圧縮をしないことにしています。また、最近増えている森林環境学習支援活動についても、児童・生徒たちの活動が活発化しているものにブレーキをかけない方針の中で、選んだのが針広混交林化事業です。これは、1年、2年期間をのぼしても、影響が少ないということで選択したところです。

熊谷会長

ありがとうございます。委員の中での問題意識の共有と言うことで確認させていただきました。子どもたちに対しての支援活動の予算を削りたくないというのは正解だと思います。よく公的資金を使って、学習機会を提供することを、成果はなにか、成果を可視化できるのかと言われますが、これは数値化できるものではなくて、淡々と着実にやるのが大事になると思いますので、ここは予算を削らない方がよろしいかなと思います。

ほかになにかある方いらっしゃいますか。

それでは、次の議題に移ります。

10 議題（3）

熊谷会長

議題3 令和7年度森づくり県民提案事業の募集（案）について事務局の説明をお願いします。

事務局（春日主幹）

資料3 「令和7年度森づくり県民提案事業の募集（案）について」説明

熊谷会長

ありがとうございました。いかがでしょうか、県民提案事業です。加賀谷委員、どうぞ。

加賀谷委員

最近ニュースで、ドローンを使ったクマの観察とか、AIカメラを使ったクマの写真撮影などがあり、直接クマの出没抑制、被害軽減には関係ないですが、ソフトウェア・ハードウェアの開発について、募集要項はどうなっているのでしょうか。

熊谷会長

いかがでしょうか。

事務局（春日主幹）

内容的に難しい質問ですが、今までドローンを使ってクマをどうこうするかというのは想定していなかったのですが、この事業は100万という上限がありますので、その中でやるとすれば、従来の緩衝帯の刈り払いとかになると思います。

小野課長

ドローンとなると森林に手を加えるということではなくなるので、森づくり税の趣旨は森林整備でして、ドローン等につきましては、直接的な被害対策として自然保護課の方で、対応を考えるとと思います。貴重なご意見ではございますが、今回は対象外とさせていただきます。

熊谷会長

ありがとうございます。加賀谷委員のご提案は、税事業になじむかどうかは別にしても非常にやる価値のある試みだと思えます。実は、うちの学生からそんなアプリを開発できないかという相談もありました。ただ学生なのでドローンを買ったり、学生1人で情報を集めたりするのは無理なので、県の方と情報共有してみると言いました。県の方でも、クマの目撃の情報サイトがあると思えます。うちの学生も使っていますが、タイムラグがありすぎて、あまりつかえないとのことでした。リアルタイムに情報がアプリなりスマホに反映されなければいけないことを考えると、ドローンで位置なりを正確に検出できるものを開発できないかと思えますが、林業研究研修センターの方では、そういった研究はされていますか。

林業研究研修センター 和田部長

林業研究研修センターの方では、直接的にクマの研究はしていません。クマと一番関係あるのは、前回の基金運営委員会視察されましたブナの結実状況とクマの出没の相関が強いと、特に秋田県は強いので、そういった観点からは研究していますが、直接的にクマの生態についての研究には取り組んでおりません。

熊谷会長

今日はまだ村上森林技監がおりませんので確認できませんが、森林総合研究所の方でそういった方がいるのか、もしくは環境省のほうにいるのか私の方で興味があるので、調べてみたいと思います。いずれにせよ、価値のある試みだと思うので、こういうのは個人のスマホで情報がアップデートされれば事前に居場所がわかり、被害の軽減にもつながるので、有効な手立てになると思います。加賀谷委員、建設的なご提案ありがとうございます。自然保護課さんとの情報共有は、もしよければ私の方でしますし、事務局の方でも情報共有していただけますか。

小野課長

こちらの方でも伝えます。自然保護課の方とは、当課と棲み分けしてございまして、森林整備に関しては森づくり税を活用し、それ以外のものは自然保護課の方で対応するというように棲み分けして重複しないようにしております。今日のご提案を伝えて対応いたします。

熊谷会長

よろしく願いいたします。私の方からも情報共有します。ほかにどうでしょうか。県民提案事業です。佐藤委員お願いします。

佐藤委員

以前にも水と緑の森づくり税というネーミングを踏まえて、水をどこかに盛り込ませられないかという質問をしました。この資料を拝見しますと、例えば、「森や木とのふれあい空間整備事業」の「ふれあいの森整備事業」の1つに「湧水・名水の森」というのがありました。今回、森づくり県民提案事業の事業例が様々記載されていますが、その中に水というワードを入れて、例えば、地域の名水あるいは湧水を保全するための活動等というのを盛り込ませて、こういうのもありますよということを認識させることも必要だと思い、ご提案させていただきます。

熊谷会長

はい、ありがとうございます。そもそも水と緑の森づくりですから、そういった切り口も大事だとおもいます。事務局の方は、検討してみてください。今までの県民提案事業には、水をキーワードにした事業はありましたか。

事務局（春日主幹）

佐藤議員のおっしゃるとおりでして、前の委員会でもご提案いただいたと思います、なかなか結びつけにくかったということで今までなかったかと思いますが、今回のご提案を受けて検討したいと思います。

熊谷会長

申請者目線で言えば、入り口の段階で水というキーワードがなければそういった発想ができないと思いますので、キーワードが入ると今まで申請がなかった団体や、もしくは申請があった団体でも違う切り口の提案が来ると思うので、次のステージに行くという意味でもぜひ検討してみてください。

事務局（春日主幹）

はい。検討してみます。

熊谷会長

ありがとうございます。

ほかにどうでしょうか。

私から、予算の確認ですが、今の上限額が40万ですが、その申請する方から、あるいは振興局を通して、いろんな意味でこの金額ではやりづらいという声はあがっていませんか。

事務局（春日主幹）

今のところ、40万ギリギリというのは、なかなかなくて、そういう意味では、今の上限でほぼほぼ間に合っているというか、その中で実施していると思います。いろんな理由があって、あげた方がいいという意見もありましたが、まだそこまで多くの意見がきていないので、今年もこの上限でやっていけたらと思います。

熊谷会長

ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

申請の準備の段階で、各振興局・各窓口においては、ある程度サポートが必要だと思いますので、一緒に考えたり、適当なアドバイスをしたりするなど丁寧な対応をお願いいたします。

事務局（春日主幹）

はい、分かりました。

熊谷会長

それでは、この議題は以上です。

研究報告に移る前に、議題1～4までの確認をしたいと思います。基本的にすべて皆さんのご理解を得たいと思います。今年度事業の際に、松本委員から植栽の話が出たと思います、なかなか準備ができなかったとは思いますが、この委員会でいろんな意見・質問が出るのは、いままで皆さんが自明のことと思ってやっていたものに対しての再検証のニュアンスがあると思いますので、そこら辺の内容にまつわる、もしくはその周辺の情報データをしっかり準備していただければと思います。また来年度以降の、基金の活用の仕方について、育樹祭の話題がでました。繰り返しますが、育樹祭への本事業の活用の仕方の考え方、ロジックをしっかりと確認した上で丁寧な説明をしていただきたいと思います。それにより影響がでる既存の事業に対しても、しっかり優先順位をつけて、今までやってきた事業に対して甚大な影響がないようにしていただきたいです。これも繰り返すにはなりますが、子どもたちとか教育に対する事業については、とても機運が高まってきているところであり、続けることに意味があるのでその予算のカットはしないように私からお願いしたいです。

みなさん活発なご意見ありがとうございました。

いったん休憩を挟みまして、情報提供（2）に入りたいと思います。

事務局（今川チームリーダー）

ありがとうございました。

最後は、林業研究研修センターの方からの報告・情報提供になります。15：00から開始したいと思いますので、いったん休憩になります。

（休憩）

11 情報提供（2）

熊谷会長

研究発表が、今回シカということで楽しみにしています。よろしくをお願いいたします。

事務局（今川チームリーダー）

今回は、シカの分布拡大と対応策に関する研究についてということで菅原研究員から情報提供をお願いいたします。

林業研究研修センター 和田部長

税事業の普及啓発事業の一環として、当センターで森林の調査研究を取り組んでおりますが、今日は、その中の1つのシカ対策について紹介させていただきます。秋田県では、過去に男鹿半島にシカが生息していた記録がございますが、基本的にはこれまで秋田県では分布していないということで全国的に見てもシカの被害の外圏として非常にまれな地域でありました。

しかし、近年県内全域で目撃や捕獲がありまして、森林被害に対する懸念が高まっているところでもあります。秋田県では、再生林の推進と言うことで、昨今目標としている再生林率50パーセントを達成しているところでもありますし、自然環境の分野では、白神山地が世界遺産の登録30周年であり、国内外に目を向けると、2030年度を目標にネイチャーポジティブに取り組んでいる最中です。こうしたなかで、他県のようにシカの被害が爆発的に増えているのは非常に脅威でありまして、対策を練ることが必要であるということで取り組ませてもらっています。では、担当している菅原のほうから発表させていただきます。

林業研究研修センター 菅原研究員

資料6 シカの分布拡大と対応策に関する研究について説明

熊谷会長

ありがとうございました。せっかくの機会ですので、質問等ある方お願いいたします。これを踏まえた今後の新たな研究の方向性などはございますか。

林業研究研修センター 和田部長

菅原の方から報告がありましたとおり、基本的に、再生林を進めるにしても、物理的な方法の柵で囲う、苗木を塞ぐ、葉をまくというというのは、現実的には不可能と考えるので、我々の考え方といたしましては、密度の高い場所をピンポイントで特定して、捕獲圧をかけて、低密度の状態を保っていくという発想で今進めているところです。捕獲のところは我々センターでやるわけにはいかないのだから情報提供にとどまるとは思いますが、そんなイメージで考えています。

熊谷会長

ありがとうございます。村上技監、全国的なシカの被害とこれとの関係性のようなものはいかがでしょうか。

村上森林技監

被害は全国的に本当にひどい状況になっていまして、私が京都の営林署にいたときは、木を切るのをやめようと思うぐらい、植えても全部食べられるような状況でした。チューブで囲うというのもありましたが、雪が降ると雪の重みで、中の苗の穂先が下に向いてしまって、ぐるっと1周するような形になってしまうので、毎年チューブの中の苗木を針金みたいなのでピンと1本、1本伸ばしていかないといけないという膨大な作業をしていかなければなりません。本当にシカが増えると林業というのがほぼ成立しなくなると私は感じています。ですので、秋田でシカの研究をして、シカ対策をしっかりと強化するということは、非常に有意義で、今から低密度の段階から

このような研究をし、さらにシカ対策をすると言うことが本当に必要だと考えています。来年度予算の検討段階ですが、行政としてもシカ対策の研究をしていこうと、研究研修センターの方の学術的な研究と併せて行政的な対策についても検討していこうと考えています。

熊谷会長

ありがとうございます。

私が関わっている白神山地・世界自然遺産地域科学委員会でも、シカの問題が報告されていて、核心地域でもシカが目撃されていて由々しき事態であり、危機的状況でもあります。そのときに、捕獲したシカはどうするのかといった質問がでました。北海道ではエゾシカをジビエとして観光振興に使うという話があり、このシカも捕獲して使えないのですかといったことでしたが、そんなに簡単な話ではないということでした。その点についてなにか情報はありますか。

村上森林技監

長野県などでは、ニホンジカをジビエとして活用しようとしている県もあります。シカの頭数が多い県ですね。そういう活用を視野に入れている県もあります。北海道では、ペットフードとして非常に人気があるとっておりました。

熊谷会長

ありがとうございます。基本的に今の研究を元にした対策とともに、報告にありましたとおり、繁殖力が半端ではなくて、捕獲したシカの有効活用を検討しないと捕獲しても処理に、時間とエネルギー、お金がかかってしまうので、パッケージで考える必要があるかと思います。森林総研と本県のセンターでしっかり情報共有して、活用するにしても今後できることを頑張っていく必要があると思います。

委員のみなさんいかがでしょうか。

地道な研究活動の報告ありがとうございました。ぜひ情報等共有していただければと思います。ありがとうございます。

本日は以上になります。

では、進行を事務局の方に戻したいと思います。

12 閉会

事務局（今川チームリーダー）

熊谷会長ありがとうございました。また、委員の皆様には活発な御議論や貴重な御意見をいただきありがとうございました。

今回はこれで終了となりますが、技監の方から一言お願いいたします。

村上森林技監

今日は、遅れてきて申し訳ございません。議会の対応があり遅れてしまいました。今日は、基金運営委員会で話し合ったと思いますが、育樹祭が令和9年に第50回の節目の育樹祭となることが決まっております。ぜひ、森づくり税も活用して、秋田県各地で木を植えて育てていく全県運動

になるように持って行ければと思っていますので、皆様のアイデアを基金運営委員会の場でお話していただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

事務局（今川チームリーダー）

今回の議事の内容につきましては、議事録を作成し、後日委員の皆様にお送りしますので、ご確認いただきたいと思います。その後に、掲載させていただくこととしています。

次回の基金運営委員会は3月に開催する予定としております。開催日につきましては、後日調整させていただきますので、御出席をお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第2回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会を閉会いたします。

皆様どうもありがとうございました。